

令和 7 年度第 1 回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時等

令和 7 年 6 月 27 日（金曜日）午後 2 時 30 分から午後 4 時 13 分まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター本館 6 階会議室

2 議事及び報告事項

（1）議事：事例の検討について

令和 6 年 12 月 1 日から令和 7 年 5 月 31 日までの間に都医師会、都薬剤師会（以下「2 師会」という。）を通じて収集した 9 事例について検討を行った。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。

1 事例（湿疹）は、症状出現後約 1 週間で服用を中止できた好事例として 2 師会へ情報提供することとなった。

その他の 8 事例は、摂取状況・転帰等が不明であるため、蓄積していくという結論になった。

なお、健康食品を摂取後、鼻出血の症状が出現したため、摂取量を半量にしたところ、症状が軽快したとの事例があったが、この場合、症状が出た時点ですぐに服用を中止し、医療機関を受診することが大切であるとの意見が挙げられた。

（2）事務局からの報告事項

ア 東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼の実施について

（令和 6 年度第 2 回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和 6 年度第 2 回当専門委員会で検討の結果、5 事例について、2 師会に対して患者対応時の参考としていただくと共に同様の事例がないか積極的な聞き取りを依頼した。また、当専門委員会で検討した 23 事例における症状別件数について、2 師会に対して情報提供した。

さらに、患者対応時の参考として、現行法令における、食品の健康被害情報収集体制の概要をまとめ情報提供した。

また、健康食品を利用する方が、医師・薬剤師とのコミュニケーションに使用できる「健康食品手帳」について、東京都の HP で公開していることを改めて周知した。

イ 収集事例の集計結果について

平成 18 年 7 月 1 日から令和 7 年 5 月 31 日までに収集した事例の集計結果は、下表（抄）のとおりである。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抄）

（ア）情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	273	192
薬剤師会	283	269
東京都消費生活総合消費者センター※	3	3
合計	559	464

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月 17 日から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

（イ）利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	腰痛・関節痛	栄養補給	健康維持・健康増進	病気の改善	美容	便秘	血流改善	婦人科疾患改善	血圧改善	美肌	血糖値改善	肝機能改善	病気の予防	強精	筋肉増強	免疫賦活	バスタップ	その他・不明	年代別患者数
10代	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7
20代	22	1	4	1	4	4	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	3	18	61
30代	19	0	6	4	1	7	1	1	3	0	5	0	1	0	1	0	0	0	22	71
40代	23	2	6	6	3	5	3	1	4	1	1	1	0	1	2	0	0	0	22	81
50代	11	13	27	9	2	4	4	1	1	2	2	1	2	2	0	1	2	0	40	124
60代	9	21	14	15	7	1	6	3	1	4	1	0	0	2	1	2	2	0	38	127
70代以上	10	53	28	14	9	3	9	7	2	5	1	6	5	1	0	2	0	0	72	227
不明・記載無し	3	1	1	3	0	1	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	43	58
合計	99	91	88	52	26	25	24	17	12	12	12	9	8	7	5	5	4	3	257	756

・ダイエット・美容は 20～40 代、腰痛・関節痛、栄養補給は 50 代以上、健康維持・健康増進は 60 代以上が多い。

(ウ) 性別

性別	患者数(人)	構成比(%)
女性	339	73.1
男性	119	25.6
記載無し	6	1.3
合計	464	100.0

- ・女性 は 男性 の約 3 倍であった。

(エ) 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比(%)
有り	269	58.0
無し	122	26.3
不明・記載無し	73	15.7
合計	464	100.0

- ・医師の診察がない（又は不明）患者が約 4 割であった。

(オ) 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数（人）	構成比(%)
有り	271	58.4
無し	137	29.5
不明・記載無し	56	12.1
合計	464	100.0

- ・基礎疾患のある人の事例は約 6 割であった。

(カ) 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数（人）	構成比(%)
有り	209	77.1
無し	16	5.9
記載無し	46	17.0
合計	271	100.0

（母数：基礎疾患のある 271 人）

- ・基礎疾患のある人の約 8 割が、治療薬を服用している。

(キ) 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	141
胃痛・胃部不快感・吐気	98
下痢・軟便	58
肝機能障害、肝機能検査値異常	49
血液検査異常（肝機能以外）	49
便秘	19
出血、出血傾向	9
倦怠感	8
めまい・ふらつき	7
頭痛	7
下腹部痛、子宮出血	4
その他	66
合計	515

（母数：455 人）

・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「下痢・軟便」「肝機能障害・肝機能検査値異常」「血液検査異常(肝機能以外)」であった。

・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものである。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

令和7年7月現在

No.	氏 名	所属
1	朝倉 敬子	東邦大学医学部社会医学講座 予防医療学分野 教授
2	梅垣 敬三 (座長)	吉祥寺二葉栄養調理専門職学校 講師
3	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
4	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（呼吸器）教授
7	山口 隆司	特定非営利活動法人国際生命科学研究機構 特別顧問